第 2016-40 号

恵みと真理のニュース

2016 年 10 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

親の重い病気を治療してくださった神様、私の息子を導いて摂理し助けてくださった主を賛美します

私の故郷は人々がいつも農業で忙しくて劣悪な環境でした。　幼い歳に弟達の世話をしながら苦労する両親に喜びを与えるため努力しました。そんな私が親の心に不便を強いることがありました。村の知り合いの人から伝道され教会に通ったのです。はじめは、夏の聖書学校に行くと学用品とお菓子をくれると聞いて教会に行きましたが、床にみんな集まって座っ説教を聴くのが楽しくて、歌詞が書かれている巻物チャートをめくって教えてくれる歌を歌うのが好きになって続けて教会に通いました。すると親は私が主日ことに教会にいくため弟たちを世話を見るのがおろそかになったと叱られこれからは教会には行くなとしました。しかし、私は親から叱られても礼拝を捧げる時間が楽しくて親の話を聞かなかったです。今もその時が大事な思い出です。

教会に通うのを反対した親と家族が神様を信じる神様の摂理がありました。私の家族は韓国戦争の時に二人の母方の叔父が亡くなった祖母が老衰で亡くなり、その事で耐えた母がつい病気になりました。はじめは疲れで重い病気だと思はなかったですが時間に連れて母の病気が酷くなって動くのも難しくなりました。様々な病院に行きましたが病名が出ませんでした。

ある日は教会に通う執事が父に訪ねて来て牧師を招いて祈りを受けると勧めました。偶像崇拝をすると勧める時には断った父がなぜか執事の勧めは受けました。その時から何日間牧師と執事が母の健康のため祈ってくださいました。母は徐々に回復して健康になりました。この驚いた事を聞いた隣人も私の家族をついてイエス様を信じ始めました。

父にも生死のせとぎわに立つ大きい病気がありました。６０歳の誕生日を控えて消化不良とおなかが痛くて検査を受けましたが胃癌末期という晴天の霹靂のような診断を結果を聞いたのです。手術をすると後遺症で他の所に転移される可能性があると医師が話しました。

しかし、酷い痛みを我慢できなくて治療の神様を信じる信仰があったので希望を持って手術を選択しました。そして神癒の関する約束の御言葉を強く信じて切に神様を仰ぎました。神様は驚くな治療の奇跡を見せてくださいました。手術を受けた父は以後３０年間健康で過ごして一昨年神様がいる天国に召されました。このように神様の驚くな権能を体験して私たちは神様に栄光を捧げ熱心に祈り主の御言葉を愛するようになりました。

私は青年になって都市で職場生活をするうちに同じ会社で勤務している旦那が真面目な姿が好きで付き合ってアンサンに来て結婚生活をしました。はじめは慣れてない所で生活をして不平しました。しかし、考えてみるとこの事もまことに感謝と神様の摂理でした。御言葉と聖霊で満たされている恵みと真理教会の生徒になって礼拝ことに恵みある説教を聴くとすぐ理解できるし切なかった心がエデンの園のように豊かになります。

神様はこのような神霊な楽しみと幸せを知らない旦那の家庭の福音化のため祈りをする相嫁も会えるようにしてくださいました。ほかの地域で住む相嫁もそこで私たちの教会を仕えています。

神様は私に二人の息子をくださって、二人の息子が神様の愛の中で健康な青年で成長しました。青年になった息子が進路に対する悩みがありました。私はそんな息子の道のため神様にたくさん祈りました。大学生になった長男が願っていた大学ではなかったので大きく失望して軍隊に行く決心をしました。元々は陸軍に志願しようとしましたが、志願者があまりにも多くて思わなかった義務警察軍に志願して軍服務をするようになりました。そうしながら警察の業務も知るようになり軍隊を除隊して弟と共に警察公務員試験を準備をしました。

誰でも人生の中で考えもしなかった様々な状況にあいますが、私の家庭も例外がありませんでした。息子はいつ終わるかわからない受験生になりました。旦那は早く退職して様々な会社を探しました。アルツハイマー病の姑はいつも妄想の症状がよく振替してひどくなりました。安定的な生活の秩序がぐずれてしまいました。そのような大変な状況で私はハバクク預言者の信仰告白を黙想しました。 いちじくの木に花は咲かず／ぶどうの枝は実をつけず／オリーブは収穫の期待を裏切り／田畑は食物を生ぜず／羊はおりから断たれ／牛舎には牛がいなくなる。 しかし、わたしは主によって喜び／わが救いの神のゆえに踊る。（ハバクク２：１７，１８）

そして、息子達が勉強する間牧師と伝道師がくださる御言葉と祈りで慰めれ励まされてどんな状況でも神様を信頼して、神様を畏れる子供になるように祝福してくださいました。息子たちが思春期に入ってから信仰生活をおろそかにしました。それで、私は今まで子供たちを正しく叱れなかったのと神様の御言葉でよく導かなかったことが恥ずかしくてまず、神様に悔い改める祈りと子供たちを憐れんでくださるように祈りました。神様は恵みが望みました。

多くの時間がかからなくて二人の息子が警察公務員の試験に合格しました。長男が義務警察軍に資源してから全ての過程が神様の摂理してくださいました。もっと感謝することは子供達が神様に対する信仰が回復して様々な足りないものあるけど賛美で栄光を捧げ聖歌隊員になって私と奉仕しているのです。 これは私に、世の中の掛買のない大きな喜びです。

息子たちが今まで自分の思いと力で生きる時間だったら、今は主の御言葉に従て生きて、いつ、どこでも主を畏れて委ねながら愛するように神様に祈ります。私の家族が相変わらず主の喜びと神様の栄光のため生きるのを希望しています。そして、私から忠誠と忍耐と謙遜な心で神様がくださった奉仕の職分を担えるように祈ります。全ての主の摂理で助けてくだり祈りに答えてくださる神様に感謝と賛美を捧げ全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

愛する者達が守るべきのこと

"しかし、愛する者たちよ。あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、...”（ユダ書 1:20～23）

ユダはこの手紙を読む対象に向いて＇愛する者たちよ＇という呼称を三回も使いました。手紙の書出しに＇愛する者たちよ＇と呼ばれる人々の身分と状態が簡略ではあるが明瞭に表れています。"神様の召しを受けた者""父なる神様に愛される者""イエスキリストに守られている召された者"としました。そして、本文には＇愛する者達＇だと呼ばれる人々が肝に銘じて遵行すべきのことを明示しておきました。

第一は、"最も神聖な信仰の上に自らを築き上げなさい"としました。

ここで述べる＇信仰＇とは人間の信念ではなく福音に根付いた信仰、神様のお言葉に基づいた信仰をいいます。人間の思想、哲学、幻想、神秘体験、宗教に基づいた信仰とは区別された別の信仰であります。創造主に対する信仰、聖三位神様に対する信仰、救いに対する信仰、天国に対する信仰、イエスキリストの復活と再臨に対する信仰、聖徒の復活に対する信仰、この全ての信仰は聖書に一致すべきです。聖書に合う信仰だけが＇神聖な信仰＇であります。この神聖な信仰の上に私達の人生を築き上げるべきです。

第二は、"聖霊によって祈りなさい"としました。

聖徒達がお祈りをする目的は様々であるが、大きく二つに区分することができます。神様の思いを分別するためにお祈りして神様の助けを受けるためにお祈りをします。聖霊様は聖徒達を慰めて、教えて、手伝ってくださいます。私達は神様の思いを分別するために聖霊様の教えと導きを信じて求めるべきです。そして、神様の助けを受けるために聖霊様に頼って祈るべきです。

第三は、"神様の愛の中に自らを保ちなさい"としました。

本文に記録された＇神様の愛＇とはイエスキリストの中に表われた愛をいいます。ヨハネの手紙一に次のように記録されています。"神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。"（ヨハネの手紙一 4：9、10）。キリストイエスの中に表われた神様の愛を考えながら生きていき、神様の愛を信頼し、神様を相変わらずに愛すべきです。

第四は、"永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス.キリストのあわれみを待ち望みなさい。"としました。

イエスキリストを信じる人は現在永遠の命を得た状態にあります。しかし、究極的に永遠の命はキリストの再臨と最後の審判を通じて完全に享受するようになります。聖書に記録された神様のお言葉から右にも左にも片寄った神学や教理を従いながら信仰生活をする人は熱心を出してお祈りをして賛美しても天国に入ることができません。キリストの中に表われた神様の哀れみに頼らず、人間の功労に頼る人は神様の退けを受けます。主である神様の哀れみはキリストイエスだけに頼る人に臨みます。

第五は、"疑いをいだく人々があれば、彼らをあわれみなさい"としました。

＇疑いを抱く人々＇とは神様の恵みと真理に固く立つことができていない人々を意味します。福音を聞いても半信半疑する人々であり、信仰が行きつ戻りつする信者を指します。まだ信仰が弱くて迷惑を受け疑う人々を哀れんでこのような人々をケアすべきです。

第六は"火の中から引き出して救ってやりなさい"としました。

＇火の中から引き出してあげるべきの人＇は疑う人々より深刻な状態である人、異端的教理に嵌っている人々をいいます。このような人々を相手にする時には危険が伴います。汚染されないように注意すべきです。その人は哀れむが彼らの罪は嫌悪すべきです。溺れた人を引き出してあげる時のように用意周到しないと逆に引き込まれます。火の中にいる人を救うためにはむやみに行ってはいけません。適切な装備が必要であります。

皆さんはこのような命令に従って生きていくことを大きな喜びと幸福に扱うようになってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私たちの健康のための神様の思いやり

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神様は私たちのたましいがいつも恵まれていると同じく、すべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。 元気なのを願います。 これに対して疑う余地がないように確かな多くの証拠が聖書に記録されています。 神様は私たちの健康のための幾多の命令と約束をくださいました。 私たちが慎んで退けて捨てなければならないものと積極的に収容して維持しなければならないものに関しておっしゃいました。

使徒パウロとバナバが第 1 次伝道の旅行を終えてアンデーオック教会に帰還してとどまっていました。 この時ある人々がユダヤから下って聖徒を教えるのをモセの律法によって割礼を受けなければ救いを得ることができないと主張しました。 彼らはユダヤ出身の律法主義者でした。 使徒パウロとバナバの伝えた福音は人間の罪をあがないしたイエスキリストを信じるだけで救いを得るというのです。 だから律法主義者と衝突するしかなかったです。 激しい論争が起きるとアンデーオック教会はパウロとバナバを中心にする代表団をエルサレムに行かせて使徒と長老の総会にこの問題を提出することに決めました。 パウロとバナバはエルサレムに行って自分たちの伝道活動に神様がともになさったことを報告しました。この時 ある人々が起きて問題を申し立てました。 彼らは異邦人に割礼をして、モセの律法を守りなさいと言うことが当然であると主張しました。
この問題に関して議論しようと使徒と長老が会議を開きました。 会議の議長はヤコボでした。長時間激しい論争がありました。 十分な弁論が進行された後使徒ペテロが起きて結論を下すのに影響を及ぼす発言をしました。 “あなたがたが分かるが”と急ぐ取り出しました。 これはペテロが異邦人のゴネルリョの家に招かれて行って福音を伝えた事件でエルサレム教会で問題申し立てになった時その事が神様の主導の下になったことを説明するので一切終わた事実を言うのです。 その頃ゴネルリョとその家族と知り合いに神様が聖霊を注いでくださったが彼らが割礼を受けなくても主イエスキリストを信じる信仰を見て罪の赦しを受けたのであることを指摘しました。 だから信仰で義のあるようになるこの恵みを受けることに神様がユダヤ人と異邦人の間に差別を置かなかったと言いました。 結論的にユダヤ人や異邦人や等しく主イエスキリストの恵みで救いを受けるのを信じようと言いました。 ペテロがかつてゴネルリョの家で経験した事件は今回の論争を終熄させて結論を導き出すのに決定的な役に立ちました。ペテロの発言が終わると会議場の雰囲気が物静かになりました。 するとバナバとパウロが彼らの宣教活動を通じて神様が異邦人に行った奇事を報告しました。 バナバとパウロの報告が終わると議長であるヤコボが結論を下しました。異邦人に割礼という律法遵守を強要してつらくしてはいけないと言いました。 そして偶像崇拝の祭祀の議式に参加せずに、異邦人の淫らな風習を排撃して、首をつって殺したことと血を食べないと言う何種類の基本事項だけ異邦人が守るように勧勉しなければならないと言いました。 ヤコボのこのような結論が総会の議決で公式的に採択されました。

今日の題目は “私たちの健康のための神様の思いやり”なのに、初代エルサレム教会で初めの総会が開かれた過程と議決内容を説明した理由があります。 ユダヤ人に歪曲された選民意識と行為による救いという誤れた考えを持たせた割礼の真の意味を明らかにして同時に割礼にもそして首をつった獣と血を禁じた決意にも私たちの健康のための神様の思いやりがその中にいるという事実をよく見るためなのです。

第一に、神様がモセを通じてくださった律法の中にレビ記 12 章 3 節に見ると八日目にはその子の前の皮に割礼を施さなければならない。他に言って割礼を受けさせました。 これに対してよく見ます。

割礼は男の子の生殖器の表皮の端を切り取る意識です。 割礼に関する神様の命令は最初にアブラハムに与えられました。 創世記 17 章にこんなに記録されています。 “神はまたアブラハムに言われた、「あなたと後の子孫とは共に代々わたしの契約を守らなければならない。あなたがたのうち 男子はみな割礼をうけなければならない。これはわたしとあなたがた及び後の子孫との間のわたしの契約であって、あなたがたの守るべきものである。割礼を受けない男子、すなわち前の皮を切らない者はわたしの契約を破るゆえ、その人は民のうちから断たれるであろう」”（創世記 17:9,10,14). 割礼はアブラハムと彼の子孫が神様と口約束を結んだ民になったことを表示するのです。 ユダヤ人はこれを力をつくして守りました。
イスラエル民において割礼はアブラハムと彼の子孫に与えられた神様の口約束の象徴で重要なことでした。 出生してから 8 日目に割礼を受けさせました。 医学的な研究結果によれば生まれてから 8 日になる子供は痛みをあんまり感じないし、血もすぐ止んで傷も速く癒えると言います。 血を凝固させるビタミン K が生後 7 日に行って正常分量に至って凝血の数値が 100%で安定するというのです。 割礼はアブラハムと彼の子孫が神様と口約束結んだ民になったことを表示する象徴性外にも疾病を予防する意味があるという研究結果があります。 1900 年初ワインバグ博士がニューヨークで患者の記録を研究している途中ユダヤ人女達には感染された事例がほとんどない疾病を見つけました。 そこで割礼に対する答を得るようになりました。包茎である男の場合は清潔に問題があることができるし細菌感染の原因提供になることができるという事実です。 一方に割礼を受けた場合はその可能性が少ないからであるということが分かるようになったのです。 男の子が成長しながら大多数は自然に包茎が解決されるからわざわざ幼い時に必ず包茎手術をする必要性はないが割礼は予防医学的な意味があるという事実を現代医学が明かしたのです。
割礼に関してレビ記 12 章に記録されるのを “主はまたモーセに言われた、「イスラエルの人々に言いなさい、『女がもし身ごもって男の子を産めば、七日のあいだ汚れる。すなわち、月のさわりの日かずほど汚れるであろう。八日目にはその子の前の皮に割礼を施さなければならない。その女はなお、血の清めに三十三日を経なければならない。その清めの日の満ちるまでは、聖なる物に触れてはならない。また聖なる所にはいってはならない。”（レビ記 12:1-4）しました。 男赤ちゃんの割礼と同時に赤ちゃんを出産した産婦に対する浄潔の規例です。 出産を女性一人は一定期間の間不正であると宣言しています。 出産した女人に罪があってこんな規例が与えられたのではないです。神様は出産した女人に不正な期間を設定してたとえ出産した女人の宗教的、社会的特権を停止させたがその理由が実際では産婦の健康のための優しい思いやりです。 産後調理のための思いやりです。 その期間の間産婦が休息を取って、元気を回復して美しさを取り戻すことができさせたのです。 その期間は禁慾して細菌感染防止になるようにしてまた赤ちゃんに感染防止になるようになさった思いやりです。

二番目で、ヤコボが下った結論の中に“首をつって殺したことと血を遠ざけなさい”と言うお話に対してよく見ます。

首をつって殺した動物を遠ざけなさいということはそういう動物を飲まないと言う意味です。首をつって殺した動物の身には血がそのままあるからです。 血を遠ざけなさいという命令も血を食べないと言う意味です。 レビ記 3 章 17 節に記録されるのを “あなたがたは脂肪と血とをいっさい食べてはならない。これはあなたがたが、すべてその住む所で、代々守るべき永久の定めである』」” と言いました。 神様が獣の血を食べないと言う律法をくださったことも人の健康のための優しい思いやりがその中にあります。 血液検査をすれば健康状態が分かります。 身の中に侵透した菌が血液の中にあります。 だから獣の血を飲むということは健康にすごく危ない事です。 また他の問題があります。 鹿や猪を狩ってその血を飲めば力が湧き出ます。 その理由は狩り当ぎり動物の血中にアドレナリンが一杯であるからです。恐怖と命の危機にあうようになった動物の副腎でアドレナリンが大量分泌します。 このようにアドレナリンが一杯な血を飲めば気運が出るものと決まっています。 しかしこのアドレナリンが T 淋巴区を破壊させる結果を生じるようになります。 そして抵抗力の劣った身が感染されれば発病するようになります。 現代医学がこんな事実が分かる 3 千余年の前に神様は獣の血を食べないと律法で厳格に禁じました。

神様のお言葉は理解できなくても信じて従順しなければならない理由が二つです。 第一は、絶対主権者である神様のお話であるからです。二番目は、神様のお言葉は私たちの幸せの慈しんでくださったお話であるからです。 だから神様のお言葉は理解ができなくてもそのまま信じて従順する者が賢くて福がある者です。 愛する聖徒の皆さんは神様のお言葉の前ですべての理論を廃してしまって ただ信じて従順する生活をなさってください。